

泉武弘の市政だより

発行者：行財政改革クラブ・泉武弘 政策研究所・市議会議員 泉武弘

別府市上平田町13組 TEL 0977 - 67 - 0570 FAX 0977 - 67 - 0659 ホームページ <http://www.izumi-t.jp>

左の段よりお読み下さい。

お元気ですか泉武弘です。



行財政改革クラブ代表者・泉武弘政策研究所代表者

市議会議員 泉 武 弘

議員定数削減の 早期実施を

私は昨年9月24日、議長に議員定数の削減を要望をしました。

議会は市民の負託に応えるため、健全な財政で適正な予算の執行を監視し、福祉の増進を図るためにどうすればよいかを審議するのが仕事です。ところが大変残念なことです。今の財政状況を見ると、議会が市民の負託に応えているとは思えません。

この国では、中央から地方まで政治家や公務員の責任が極めて曖昧で、いつも最後には国民の税金で処理してきました。せめて別府市議会だけは、市民の信頼を失わないためにも、議会の意思で思い切った議員定数の削減を行い、責任の所在を明確にすべきだと考えます。

別府市議会議長
清成 宣明 殿

議員定数削減などについてのお願い

吹く風に秋を感じるようになりました。貴職におかれましては、議会の代表として、市政発展にご尽力をいただき、大変感謝しています。

さて本日、貴職にお願いすることは、私が9月議会で要望しました議員定数削減についてです。市財政の推移は執行部が明らかにしたように、平成18年度から単年度収支が赤字となるため基金を取り崩して財政運営をしなければなりません。この事態に対して多くの市民から、議会はなぜこのような財政状態に陥ることを阻止出来なかったのか、議会は市民の負託に応えているのか、議会の責任を明確にすべきだ等の意見が多く寄せられています。

私が今さら述べるまでもなく、議会は予算の審議や議決、決算の認定など、財政運営の決定に重要な役割を果たしています。貴職におかれましては、すでにご承知のように、当市の最優先で最重要の課題は、財政健全化を具体的に進めることです。そのためには大胆な行財政改革は避けて通れないのです。

行財政改革を進めるためにも、また市民に対して議会の責任を明確にすることは極めて重要なことと思っています。政治は住民の信頼があってこそ成り立つものです。

貴職におかれましては、市民の声に耳を傾けていただき、次の事項について早急に協議を開始し、年度内に結論が出るよう議長として、積極的に取りまとめをしていただくようお願いいたします。

記

- 1 議員定数の見直し
- 2 視察旅費及び視察方法の見直し
- 3 常任・特別委員会の見直し
- 4 各種審議機関や第3セクター等の委員と議会との関係の見直し
- 5 その他議会経費の見直し

平成15年9月24日

行財政改革クラブ代表者 泉 武 弘



特集



競輪事業を考える

競輪の場外発売の日田進出問題は、市民と競輪事業について考える機会となりました。今回は競輪事業を特集し、皆さんにこの問題を考えていただくため、より客観的に事実をお伝えします。

競輪事業はどうして始まったのでしょうか

戦後の日本経済は大変混乱していました。各自治体では、その経営に必要な財源の確保が重要な課題となっていました。戦後復興財源の一環として「競輪事業」は、昭和26年にスタートしました。別府はそのうちの一つの競輪場です。

400億円も市財政制に貢献

事業が始まった26年の車券売り上げは、2億4,000万円で、入場数は11万6,000人でした。最高の売り上げを記録したのは、平成4年の372億円で、「益金」の別府市の繰入れは年間だけで22億円となっています。しかし、平成14年度では、売り上げは131億円で、別府市への繰入れは4億5,000万円となっています。競輪事業の収益は競輪の施設改修などのファンサービスとして使うのが当然ですが、別府市では市民生活に必要な道路、学校、下水道や老人、子供、障害者などの費用として使われています。

競輪事業が始まってから、400億円を超える益金が市に繰り入れられ そして市民のために使われています

さて、平成15年度の繰入金金は3億5,000万円で、その支出内容は次のとおりです。

- | | |
|-----------------|---------|
| 1. 湯の町別府っ子誕生祝事業 | 3,000万円 |
| 2. 認可外保育施設助成事業 | 1,000万円 |
| 3. 老人保健への繰入金 | 3,000万円 |
| 4. 母子、成人保険対策費 | 3,700万円 |
| 5. 小、中、高校の施設整備費 | 2億円 |
| 6. 下水道事業への繰出金 | 3,000万円 |

この他に競輪事業会計から、競輪場周辺対策事業として、毎年約5,000万円が道路、側溝などの整備として使われています。

競輪事業の波及効果は

競輪事業は、市財政に多大な貢献をしているだけではありません。競輪場で働いている人の賃金としても大変貢献しているのです。競輪は大きく分けて、別府市主催のものと他の競輪場が主催する競輪の車券を売っているものがあります。別府市が開催する競輪は年64回で、この仕事に従事する人は373人で、賃金2億2千万円余りが支払われています。他の競輪場の車券を売っているのは年108回で、2億8千万円の賃金が支払われています。他の競輪場の車券販売に要する人件費は、主催する競輪場から全額支払われます。従事する人に支払われている賃金は5億円にも達します。この他に競輪場内の食堂、選手宿舍、看板や電気、水道、ガスなどの消費を加えると、競輪事業の経済波及効果がいかに大きいかわかっていただけたらと思います。

場外車券販売中止の問題点 溝江建設と別府市は大家と店子の関係

昨年11月、浜田市長の「サテライト日田」での車券販売断念発表はあまりにも唐突で、議会には勿論、競輪事業を運営している事業課にさえ、日田との合意後に報告だけするという、異常な結末を見せています。多くの市民は「断念発表」でこの問題は解決したと思っているのではないのでしょうか……

場外車券売り場設置はどのようにして

競輪の収入が減少し続ける中で、当時の井上市長が、「日田で観光複合施設を運営していた、溝江建設株(福岡市)に場外車券場設置を働きかけた」(井上氏談)ことからこの計画がスタートしました。

井上さんからの働きかけに対し溝江建設株は、「場外車券販売のような仕事は全く経験がなく、しかも駐車場も広く必要とするので、事業としてはどうかなと疑問に思ったが、別府市からの要請があったので、場外車券売り場設置に向けてスタートした(溝江建設株談)」と述べています。

別府市と溝江建設株との関係は

1. 溝江建設株は別府市からの要請で場外車券売り場を建設する。
2. 別府市は溝江建設株の場外車券売り場を借りて車券の販売をする。
3. 別府市は車券売り場等の施設使用料として年間5,300万円を溝江建設株に支払う。

以上のような経過を経て、溝江建設株は国から場外車券売り場設置者として許可を12年6月に得ました。

場外車券販売断念の理由は

別府市は断念した理由として、次のコメントを出しました。「日田市から『経済産業大臣に対する訴えを取り下げる』との考えが示され、別府市に日田での車券販売を断念するよう強い要望があり、これを受けて別府市として諸情勢を判断し



た上で車券販売を『断念』するという方向で双方合意した。」
しかし、この合意形成には次のような問題があります。

1. 裁判は日田市と国との問題で、別府市は当事者でない。
2. 裁判の取り下げ問題は日田市が決めることである。
3. 日田市との合意の前に、場外車券場設置に合意を与え、準備を進めて来た溝江建設㈱の了解を得るべきである。
4. どうして裁判の結果を待たずに、日田の都合に合わせる必要があったのか、裁判の結果を見て別府市の方針も決めるべきではなかったのか。なぜ、溝江建設㈱に一度の相談もせず、一方的に日田市との合意で断念したのか。

この「ツケ」が、賠償という形で別府市民に回ってくるのではとまっている方もいることでしょう。それにもまして日田と国との裁判では、「溝江建設㈱に対して国が許可をした『場外車券売り場設置』に、地元（日田市）の合意がない許可は無効だとする内容で」全国的にも注目された裁判であっただけに、日田市が取り下げたことと、浜田市長がこれに合意を示したことは極めて残念です。日田市の都合に合わせて決断をした浜田さんの顔は、果たして別府市民に向いていたと言えることができるでしょうか。

注) 日田と国との裁判は、昨年1月、大分地裁では、日田市に原告適格がないとして訴えを却下しています。

別府市は、溝江建設㈱が建設する場外車券売り場を借りて、車券の発売をする計画でした。別府市から要請のあった溝江建設㈱は、車券売り場許可申請、造成工事、建築許可、そして関係者の話では、車券売り場建築のための鉄骨加工もすでに終わっているとのことで、これらに要した費用は数億円とも言われています。

日田市で車券販売をしないことはすでに平成13年に決定

平成13年2月8日に開かれた臨時市議会において、車券発売に必要な予算を議会が否決したことで、既に別府市が車券発売をしないことは決定しています。この問題解決で一番大切なことは、別府市の要請で準備を進めてきた溝江建設㈱との関係をどのように解決するかでした。別府市の方針を議会が「車券発売をしない」と決定したにもかかわらず、溝江建設㈱との問題解決をしなかった前井上市長、そして溝江建設㈱とただの一度の協議もなく、日田市との合意だけで一方的に断念を、溝江建設㈱に伝えた浜田市長、両者の責任は極めて重いものがあります。

私が一番心配しているのは、解決のしかたです。浜田市長は「この問題は市政の最重要課題であり、誠意を持って対応したい」と述べました。ところが、市長就任以来、ただの一度も溝江建設㈱に行かなかつたばかりか、車券売り場予定地さえ見ていません。車券販売中止を伝えに行ったときも、面会の予約もせず突然訪問し、一方的に別府の決定を伝えたものでした。このような対応が、今後にしこりを残さなければよいがと懸念するのは私だけでしょうか、私にはとうてい理解できない別府市の対応です。

私は場外車券販売予算に賛成しました 賛成した理由は次のようなものです

1. すでに国から場外車券売り場設置の許可が溝江建設㈱に付与されている。
2. 別府市は溝江建設㈱に売り場設置を要請し、しかも設置に同意を与え、すでに準備が大部分進んでいる。
3. 場外車券売り場中止を求めているのは日田市であり、日田市と溝江建設㈱との間で、国から付与された設置許可をどうするのか、日田市が主体的に解決すべきである。
4. 別府市が車券販売を中止すれば、当然溝江建設㈱から損害賠償請求が出される。

そのために、私は賛成決議をする前に、弁護士の見解、判例、民法、国家賠償法などを参考にして決定しました。

競輪事業はやめることができるのでしょうか

日田市との間に混乱が生じたときに、この機会に競輪事業をやめてはどうかという声が多く聞かれました。現在の市の財政状況下で、そんなに簡単にやめることができるでしょうか.....。

競輪事業収入は確実に減少しています。平成14年度の競輪場別収支を見ると、全国47場の中で25場だけが黒字となっています。競輪場を廃止する場合、どのような補償が必要となるのでしょうか。過去の実例から見ると、東京都が昭和48年に後楽園競輪を廃止しています。選手会や場内業者、執務員などの補償で37億円支払っています。この補償実例を参考にして、別府市が競輪場を廃止する場合の補償額を推計すると、次のようになります。

補償が予想されるものと補償予想額は24億円

1. 日本競輪選手会	1,821,399,207 円
2. 九州自転車競技会	334,322,206 円
3. 執務員（269人で計算）	233,103,296 円
4. 場内営業者 A 売店 B 予想業者 C 選手宿舎	54,046,080 円
合計	2,442,870,789 円

注) この支出予測は、後楽園競輪の補償実績から推計していますので、実際の廃止補償とは異なる場合があります。

競輪の廃止を口にするのは簡単ですが、実際に廃止することの難しさがお分かりいただけたと思います。競輪事業収入が激減している中で、事業の存否、事業展開の方法、施設の有効利用などについて議論が深まることを期待します。

今後の焦点

車券売り場問題がこのまま解決すれば、浜田市長の決断は高い評価に値します。また、是非そうなってほしいと願っています。しかし、溝江建設㈱となんの協議もしないで、一方的に「断念」したことに對して、補償要求が出た場合には、市長の拙速な政治判断の責任を求める声が起きることは確実で、「別府市民の利益よりも日田市との合意を急いだ」市長の政治責任が厳しく問われることになるのは確実です。

歴代市長と私

議員にならせていただき、早いもので22年目を迎えます。この間、4人の市長と市政を論じてきました。どなたも行政運営の最高責任者として、市政発展に尽くしてこられたことは誰もが評価しています。すでに他界された脇屋さんをはじめ、中村さん、井上さん、そして現職の浜田さんについて、論議の内容、政治姿勢から、感じたままを御紹介します。気に障った点があればお許しをいただきますよう伏して申し上げます。

脇屋長可さんと私

考えながら走っているのか、走りながら考えていたのか分かりませんが、強力なエンジンを搭載したブルドーザーのような市長でした。反面、人情味に溢れ、人のために涙を流すことのできるやさしい人柄でした。公設市場、市庁舎建設、北小学移転、実相寺山買収問題などでは大変厳しく対決しましたが、この時代には市政に躍動感がありました。私の議員生活に最も大きな影響を与えてくれ、しかも議員として、勉強が一番大切だということを教えてくれたのも脇屋さんでした。健康を害した晩年の脇屋さんを思い出すと、胸の痛みを感じます。脇屋さんの業績である天皇在位公園、広域圏事業の葬祭場やゴミ焼却場などは、荒金啓治さんが大分川から取水をしたように、後世の人に必ず評価を受けると思います。

中村太郎さんと私

私は、市長選挙で二度応援しました。それだけに、当選したとき、大変期待したものです。議会答弁でも見られるように、豊富な知識にはいつも驚いたものです。その反面、行政運営では全く別の面を見せる不思議な市長でした。それが夜空のサーチライト光やテルマス、芝居小屋（コミュニティーセンター）などの事業に表れています。

中村さんは、別府市を文化都市にしたいという思いが強く、その熱意が十分伝わってきていました。在任中にリコール運動が起きたことは大変残念な出来事でした。しかし、この運動は中村さん自身が招いたことだということは否定できない事実でしょう。それにしても、豊かな能力を持ちながら、それを発揮することができる政治環境を作ることができなかったことは残念な気がします。政治手法に問題がなければ、市政運営の最高責任者として、長く行政手腕を発揮できた方だろう、と思っています。

井上信幸さんと私

井上さんとは、お互いに市長選挙を戦いましたが、橋本龍太郎さんの応援などがあって当選されました。市長在任8年のうち、4年だけ政策論議をすることができました。行財政改革では同じ思いを共有し、同じ方向に歩いてこれたと思います。しかし井上さんは、実行に移す段階で躊躇する一面がありました。行革で保育園の民営化を一気に実施したことは

ホームページ始めました！

い
ず
み
で
す。



お
元
気
で
す
か

行政の問題点を
シリーズで載せています。

HPアドレス <http://www.izumi-t.jp>

E-mailアドレス genki@izumi-t.jp

あなたのご意見やお叱りをどんなことでも
お聞かせ下さい。

TEL 0977-67-0570・67-0659

FAX 0977-67-0659

携帯 090-3410-0084

評価に値します。それにしても、市職員からの献金や、ゴルフのプレー代金未払い問題で、市民の期待を大きく損なったことは大変残念に思います。井上さんが手がけ、今年度着工が予定されている西部地域児童福祉施設（仮称、西別府病院横）や、建設費の大部分を自転車振興会からの補助金で、平田町に建設が始まった北部コミュニティーセンター（仮称）などは、地域福祉に必ず貢献をするものと思っています。

浜田博さんと私

市議会議員として2期8年、一緒に仕事をさせてもらいました。当時から温かな人柄で、教組の支援で、選挙には大変強い人でした。今回は「市民の目線で政治を」と訴えて当選したにもかかわらず、最初的人事で、「論功行賞」とも思える強引な人事を実行し、浜田さんの意外な一面を見ました。この一年は、井上さんが組んだ予算の執行で、浜田市政の特徴を出すことができませんでした。したがって、自分で予算編成権を行使できる今年から、その真価が問われます。人柄の良さは認めますが、誰にでも良い顔をして、市長としての仕事ができるか疑問に思っています。その例が「日田サテライト断念」や浜田温泉の復元問題に見られるとおりです。別府観光の再生宣言を高らかに宣言し、「観光戦略会議」を設置しました。その結果が強く求められます。これからは行財政改革も正念場を迎えます。すでに大分市長は職員削減計画を発展しました。しかし、行革は人減らしが目的でないと主張する浜田さんが、固定経費の大部分を占める人件費を、どのように減らすのか大変興味があります。浜田市長の2年目は、より結果を求められることは確実です。